

農学部 農業生産学科(取得可能免許種:中学校・高等学校／理科 高等学校／農業)

作物および作物生産環境の科学的解明を通して、環境への負荷が少なく、生産効率の高い農業生産を新技術の開発等により実現・普及させるために必要な知識・技術を身につける。その目的を達成するために、座学、実験のみならず実習・演習教育に力を入れて実践力を養うとともに、深く考察し同時に正しい判断を下して実践する応用能力の醸成を図る。

こうした教育方針をベースに、同学科では大学の教員養成に対する理念に基づき、主として以下の点に重点をおきながら、高度な資質をもつ教員の養成を目指す。

- (ア) 農学、生命科学、環境科学などの学問領域を学んだ総合力のある教員を育成する。
- (イ) 自然環境と作物生産との関連について専門的な知識ならびに体系的な農業技術を身につけ、人類が直面している食料、生命、環境に関わる諸問題の解決に貢献し、豊かな創造力と強い指導力を有した教員を育成する。
- (ウ) 人権を尊重し、教育者としてふさわしい人間力のある人材を育成する。

上記資質をもつ教員を養成するため、同学科においては1年次から4年次まで、農学部4学科共通の専門基礎を学ぶ専門科目・共通群、専門領域の学びを深める専門コア群（基礎系、農業植物・栽培系、農業生物・環境系、展開系、実験・実習系）、さらに他の3学科（応用生物科学系、食品栄養学系、食農ビジネス学系）の領域を学ぶ専門総合群を配置している。

上記（ア）に関して、まず自学科の専門科目を中心に学び専門性を深め、さらに2年次より他の3学科の領域を学ぶ専門総合群の授業を履修することで、農学に関する幅広い学問領域について学修し、理科教員および農業科教員としての総合的な能力を養っていく。

上記（イ）に関して、実験・実習系では、1年次に、化学実験・生物学実験の基礎的な実験から始め、2年次に農業生産学基礎実験Ⅰ・Ⅱ、農業生産学実習Ⅰ・Ⅱ、農業生産学特別実習、3年次に農業生産学専門実験へと専門領域の実験・実習を段階的に進んでいくことで、座学と実験・実習を併行して学びながら専門知識に基づく体系的な栽培技術を習得して理科教員および農業科教員としての資質を身につけていく。また、専門科目・共通群の必修科目「農学基礎演習」では、福井県・三重県の圃場で、実地の水稻栽培において、日本古来の伝統手法と現代的な機械手法による田植え、稲刈り実習を行い、品種、土壌、施肥、病害虫、農薬管理、気象条件などを学ぶとともに、地元農家の方との対話・交流により、理科教員としての生命・生物学的視点を、農業科教員としての作物栽培学的視点を、農業生産の現場での実践を通して養う。

上記（ウ）に関して、「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」において、教育者としての資質を養うほか、1年次必修科目「生命倫理」では、ヒトだけでなく食やヒトの生活を支えているさまざまな生命、バイオテクノロジーと環境の問題など、「総合科学」の基礎となる幅広い知識の習得に加え、倫理観をもった豊かな人間性を涵養する。さらにはグループワークを通して課題を見出しディスカッションし、ポスター発表によりプレゼンテーションをすることで、初年次より人権尊重に対する意識を高めて教育者としてふさわしい資質を醸成する。